

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901670		
法人名	有限会社 ツインクルサポート		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	〒071-8135 旭川市末広5条2丁目4番1号 (電話) 0166-55-6606		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月3日	評価確定日	平成22年4月16日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 5月 21日
ユニット数	2 ユニット
職員数	22人
利用定員数計	18人
常勤	15人
非常勤	7人
常勤換算	12.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	18,000~26,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(2月17日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	74歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団博彰会佐野病院、医療法人社団並木通りクリニック、医療法人社団啓成三戸歯科医院、医療法人社団細野歯科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、住宅街に立地し、同一法人の隣接する有料老人ホームと連携を図りながら運営している。家族会を設け、家族との協力関係も良好である。施設長は人材育成に力を注いでおり、職員も意欲的に自身のスキルアップに取り組んでいる。施設長及び管理者、職員は同業者との情報交換を行いながら、利用者の生活の質の向上、利用者本位の暮らしの実現に取り組んでいる。リハビリメイクやオリジナル体操など多彩な生活リハビリを取り入れ、利用者の思いにきめ細かく寄り添うケアを展開している。協力医療機関との連携体制、看護職員による日々の健康管理が行き届いていることも利用者や家族の安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題であるプライバシー確保の徹底については、家族会で報告し了解を得られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を十分理解し、職員それぞれが自己評価に取り組むように促している。自己評価を日ごろのケアの実践を振り返る機会として活用し、より質の高いケアサービスにつなげられるように努めているが、全職員に浸透するまでには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、町内会長、婦人部、民生委員、社協職員、事業所職員を構成員とし、概ね2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の活動や外部評価結果への取り組み状況を報告するとともに、行事に参加してもらい、率直な意見交換ができるよう工夫しており、出された意見は運営に反映させている。施設見学会や勉強会を同時開催し、サービスの向上に向けた知識の蓄積を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族の来訪時に必ず声かけし、家族が気軽に相談できる雰囲気づくりに努めながら、意見や要望の聴取に努めている。相談内容によってはミーティングで取り上げ、より良いサービス提供へつなげている。家族会があり、行事への協力や勉強会への参加が活発で、家族と協働して質の高い事業所運営を展開している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。事業所開催の夏祭りは中、高生による太鼓演奏もあり、近隣住民が35人参加する地域交流の場となっている。また、事業所で飼っているうさぎを保育園児や地域の子供が見に訪れている。近隣住民が避難訓練に参加協力し、利用者が散歩している時には気軽に挨拶を交わすなど、地域と良好な関係を築いている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念の中に地域密着型サービスを具現化する「地域共生の気持ち」を掲げ、日々理念に沿ったケアサービスに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	掲示板や事務所に掲示したり、いつも目にする日誌に明記するなどして管理者と職員が理念を共有し、理念に立ち帰りながら利用者の支援に努めるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の盆踊りには利用者とともに参加している。事業所開催の夏祭り中は、高生による太鼓演奏もあり、近隣住民が多数参加する地域交流の場となっている。事業所のうさぎを見に子供たちが訪れたり、散歩時に気軽に挨拶を交わすなど、地域と良好な関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を十分理解し、職員それぞれが自己評価に取り組むように促している。自己評価を日頃のケア実践を振り返る機会として活用し、より質の高いケアサービスにつなげられるように努めているが、全職員に浸透するまでには至っていない。	○	自己評価に際しては、全ての職員がその意義を理解し作成に参加することが期待される。職員に自己評価表を配布し、全員に記入してもらった過程を大切に、振り返りの機会とすることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、町内会長、婦人部、民生委員、社協職員、職員を構成員とし、概ね2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の活動や外部評価結果への取り組みを報告するとともに行事に参加してもらい、率直な意見交換ができるよう工夫している。また、施設見学会や勉強会を同時開催している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会や講習会に積極的に参加し、情報を収集している。必要に応じて電話や窓口で相談するなど、市担当とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の近況を報告しており、利用者の日ごろの様子や行事案内などを個別に送付している。写真付きのブライト通信も定期的に発行し、行事や外出の様子を伝えている。健康状態の変化や至急の相談事は、その都度電話で連絡をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族来訪時に必ず声かけし、家族が気軽に相談できる雰囲気づくりに努めながら、意見や要望の聴取に努めている。相談内容によってはミーティングで取り上げ、より良いサービス提供へつなげている。家族会があり、行事への協力や勉強会にも参加している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は馴染みの関係を大切に考え、職員の異動を最小限に抑えるよう努めている。やむを得ない離職に際しては、ベテラン職員が新規職員のフォローを行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目指して研修部会を発足し、年間計画を立てて内部研修を実施している。外部研修については随時情報を周知し、段階に応じた研修参加をバックアップしている。研修内容は報告機会を設け、他職員への知識の伝達を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭川グループホームケア研究会、認知症高齢者グループホーム協議会等に所属し、他事業所との情報交換や研修会、事例検討などに積極的に参加して、共にサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては、事前に本人が見学したり面談を重ねるなど、本人や家族の思いを十分理解するように努めている。状況に応じて体験利用の機会を設け、事業所の雰囲気や職員にある程度馴染み、本人や家族が安心してサービスを利用できるように柔軟な支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の有する能力を最大限に活かし、引き出す支援に努め、協働作業を共に楽しむ機会をできるだけ作っている。人生の先輩として利用者から生活の知恵や体験談を学びながら、互いに尊重し寄り合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や暮らし方の希望を事前に十分把握し、その時々意見や要望を細やかに聞き取り、自己決定を尊重した利用者本位の暮らしの実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者それぞれの記録を基に、家族の要望や職員の日々の気づき、意見を取り入れ、計画作成担当者が実情に沿った介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に担当職員がモニタリングを行い、6ヶ月毎の見直しを行っている。利用者の身体状況や精神状況に変化が生じた場合には、その都度現状に見合った新たな介護計画を作成している。	○	毎日の日誌については細かく記載する習慣を構築しているが、介護目標に対し連動して記載する書式にはなっていないので、書式や記載方法について検討することが期待される。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により、看護師を職員として配置しており、利用者の日ごとの健康管理が行き届いている。利用者や家族の状況に応じて、受診付き添い、訪問理美容や馴染みの美容院の利用支援、職員によるリハビリメイクなど柔軟な支援を展開している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。定期受診時には可能な限り家族の同席を依頼し、同席できない場合には受診結果を伝えている。看護職員の配置により日常の健康管理が行き届いており、協力医療機関と連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針、看取り介護の具体的内容を重要事項説明書に盛り込んでおり、契約時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化に応じて家族、医師、事業所とが相談する機会を設け、職員を含め全員が方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりを尊重し、羞恥心への配慮や誇りを傷つけない接遇に努めており、個人記録の取り扱いや管理も適切である。契約書に個人情報の使用に係る条文を設け、使用に当たっての同意を利用者と家族から得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者一人ひとりの希望を受け入れ、それぞれのペースで過ごせるよう支援している。体操や編み物、裁縫など、利用者が意欲的に取り組むことを大切に、その人らしい暮らしの実現に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて準備や片付けを職員と共に行っている。嚥下機能や食事制限に配慮した季節感のある食事を提供している。また、盛りつけやひな人形の描かれたランチマットの使用など、食事を楽しめる工夫をしている。誕生会には希望の献立やケーキを提供しているが、誕生会の開催は2ヶ月に一度である。	○	誕生会という個別の祝い事を楽しみにされている利用者に配慮し、できれば誕生月毎の開催を検討することを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決まっているが、同性介助や時間帯の希望に応じ、入浴時のコミュニケーションを大事にしながら、気持ちの良い入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じて、掃除、洗濯、調理などの家事参加や雪かき、園芸等で力を発揮してもらい、役割や張り合いのある暮らしを支援している。また、室内でのカードゲームや行事外出、外食、歌謡ショー、職員によるリハビリメイクなど多彩な気晴らしの支援を展開している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間を除いて、近隣への散歩や買い物の要望にはできるだけ沿うようにしている。サクランボ狩りや紅葉狩り、買い物ツアー、グルメツアー等の行事外出を計画し、事業所に籠もることのない生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵をかけることの弊害を十分理解しており、居室は終日、玄関は日中施錠することはない。職員は外出傾向がある利用者を把握しており、見守りや付き添い等の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の資格を持つ職員を中心に、突発的な災害発生に備えて避難マニュアルを作成し、消防署の指導のもと昼夜間想定の実施している。その際には、重度の利用者の避難誘導を想定した訓練も行っている。近隣住民の訓練参加も実現している。	○	今後は、さらに、近隣住民との明確な役割分担などの具体的な協力体制の構築と災害時の備蓄品の確保が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事摂取量をチェックし個別に記録している。嚥下機能やアレルギーにも対応しながら、食事形態に配慮したり代替メニューを提供するなど、バランスの取れた食事、必要な水分量が摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には段飾りのひな人形など季節感を採り入れた装飾を施し、ゆったりと居心地の良いリビングとなっている。大きな窓からは事業所で飼っているうさぎ小屋が見え、うさぎを見に子供たちが訪れることも利用者の楽しみの一つである。バリアフリーの広々としたリビングは採光や温度設定にも配慮が行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向に沿って使い慣れた家具や馴染みの生活用品を自由に持ち込み、その人らしい居心地の良い居室となるよう配慮している。仏壇を置いている居室には、仏花を供えられるよう支援している。		

※  は、重点項目。